

報告2 中山間地域における地域活性化活動の事例研究

—愛知県三河地方の農産物直売グループの事例を中心に—

愛知大学文学部 渡辺 正

中山間地域は人口の急激な減少による過疎化の進行とともに高齢化が進み、農業および林業の労働力の減少と高齢化によって地域の生産構造が衰退し、耕作放棄地の増加や森林管理の粗放化などによって環境問題も生起するなど、地域社会の維持や住民の生活構造そのものにも困難な状況がより深刻化しつつある。

こうした状況の中で、中山間地域の活性化の方策として、観光開発や企業誘致などによる地域開発事業の導入など産業的な振興策が講じられているところもあり多様に展開している。しかし人口減少と高齢化が深刻化しつつある中山間地域においては、直接的に地域住民の生活や地域生活の内発的な向上や活性化につながることは困難である。むしろ地域生活の維持や活性化という観点からするならば、地域の条件を最大限に活用した事業を起こしていくことが必要である。その場合に、基幹労働力は減少し、その職業生活にも制約があることから、従来副次的な労力として位置づけられてきた高齢者や女性の活動能力の発揮と地域活性化の担い手としての再評価が重要な課題になっている。

愛知県三河地方の中山間地域においては、女性や高齢者による農産物直売活動を中心にした農業や農産物の加工を推進するとともに、都市や都市近郊の住民との交流を形成することによって地域活性化に一定の成果を生み出しつつある活動もみられる。そこで、これらの中から女性と退職高齢者の協力によって農産物の直売や契約販売を組織的に進めている東栄町の地域グループ、女性を中心に農産物と加工品の直売所を経営して実績を形成しつつある鳳来町の農村女性グループ、農産物、加工品の直売や飲食店経営を進めている宝飯町の生活改善グループの活動を事例に、中山間地域における地域活性化と新たな担い手の育成などの問題や課題を明らかにしたい